

問一 次の俳句から「自由律俳句」をすべて選び、記号で答えなさい。

- ① 赤い椿あけぼの白い椿と落ちにけり (河東碧梧桐)
 - ② 咳せきをしても一人 (尾崎放哉)
 - ③ ねむりても旅の花火の胸にひらく (大野林火)
 - ④ たんぽぽたんぽぽ砂浜に春が開く (荻原井泉水)
- (②・④)

問二 次の俳句の季語と季節を書き抜きなさい。

A チューリップ喜びだけを持つてゐる 細見綾子

季語 (チューリップ) 季節 (春)

B 柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺 正岡子規

季語 (柿) 季節 (秋)

問三 次の俳句の意味や調子の切れ目の位置に / を書き、切れ字があれば切れ字を○で囲みなさい。切れる場所がなかった場合には、俳句の一番最後に / を書きなさい。

(例) 金剛の露ひとつぶ ~~や~~ / 石の上 (西山泊雲)

① 菜の花 ~~や~~ / 月は東に日は西に (与謝蕪村)

② くるがねの秋の風鈴鳴りに けり / (飯田蛇笏)

組 番 ()

次のパズルの中から、たて・横に並んだ数字を含んだ熟語を探しなさい。四字熟語は十八個、五字熟語は一つあります。(右から左、下から上に並んでいる語もあります。)
 難しい人は、左端の熟語リストを見て探しなさい。

三	千	載	一	遇	八	二	腑	九	六
九	変	一	日	一	善	臂	六	面	八
来	万	客	千	七	文	五	臟	兆	一
五	化	四	秋	三	三	五	五	七	五
二	四	倒	一	寒	束	十	人	十	色
朝	苦	八	苦	四	二	步	一	別	中
三	千	転	八	温	者	百	億	万	百
暮	万	七	京	六	扱	步	四	差	発
四	再	三	再	三	一	騎	当	千	百

《熟語リスト》

- いちにちいぜん いちにちいぜん 一日一善
- いっきとうせん いっきとうせん 一騎当千
- いちじつせんしゅう いちじつせんしゅう 一日千秋
- にしゃたくいつ にしゃたくいつ 二者択一
- にぞくさんもん にぞくさんもん 二束三文
- さんさんごご さんさんごご 三々五々
- さんかんしおん さんかんしおん 三寒四温
- さいさんさいし さいさんさいし 再三再四
- ちようさんぼし ちようさんぼし 朝三暮四
- しくはつく しくはつく 四苦八苦
- ごぞうろつぷ ごぞうろつぷ 五臟六腑
- しちてんぼつとう しちてんぼつとう 七転八倒
- はちめんろつび はちめんろつび 八面六臂
- じゅうにんといろ じゅうにんといろ 十人十色
- ひゃつぱつひやくちゅう ひゃつぱつひやくちゅう 百發百中
- せんさいいちべう せんさいいちべう 千載一遇
- せんさばんべつ せんさばんべつ 千差万別
- せんべんばんか せんべんばんか 千變万化
- ごじつぽひやつぽ ごじつぽひやつぽ 五十歩百歩

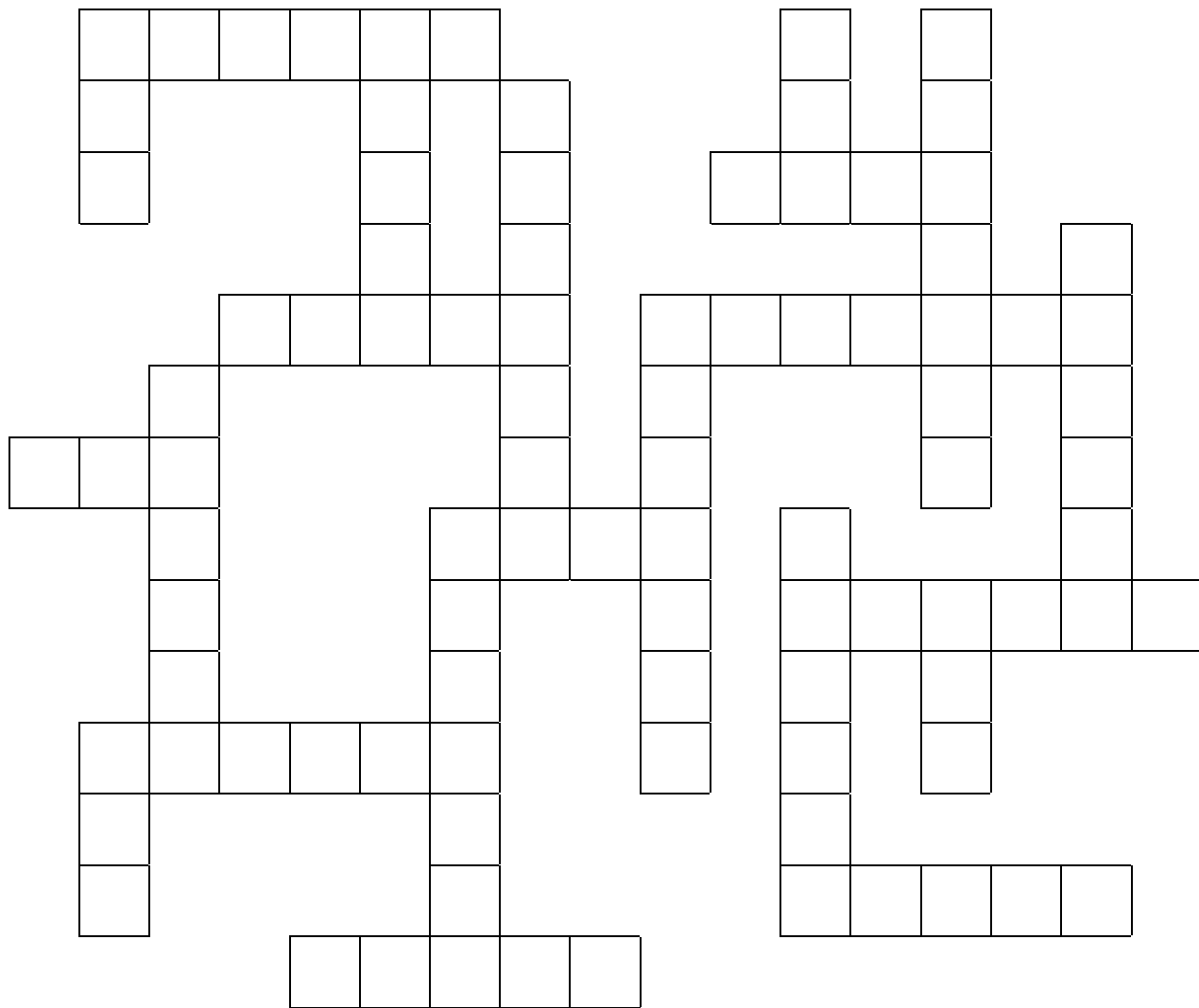
六 八 一 五 色 中 百 発 百
 九 面 兆 七 十 別 万 差 千
 腑 六 臟 五 人 一 億 四 当
 二 臂 五 五 十 步 百 步 騎
 八 善 文 三 束 二 者 扱 一
 遇 一 七 三 寒 四 温 六 三
 一 日 千 秋 一 苦 八 京 再
 載 一 客 四 倒 八 転 七 三
 千 変 万 化 四 苦 千 万 再
 三 九 来 五 二 朝 三 暮 四

☆熟語の意味

一日一善 一日に一つはよいことをして、それを積み重ねていくこと。
 一騎当千 一人で千人を相手にできる強さ。 一日千秋 非常に待ち遠しいこと。
 二者択一 二つの中から一つを選ぶこと。 二束三文 物の値段がとても安いこと。
 三々五々 数人ずつがあちこちにいるさま。 三寒四温 寒い日と暖かい日が交互に続く気候。
 再三再四 何度も何度も。 朝三暮四 見かけは違うが、実際は同じこと。
 四苦八苦 非常に苦しむこと。 五臟六腑 体のなか。心の中。
 七転八倒 苦しんで転げ回るさま。 八面六臂 多くの方面で大活躍する様子。
 十人十色 人はそれぞれ好みや考えが異なる。 百発百中 すべて命中すること。
 千載一遇 めったにない絶好の機会。 千差万別 さまざまに違っていること。
 千変万化 さまざまに変化するさま。 五十歩百歩 たいした違いはないこと。

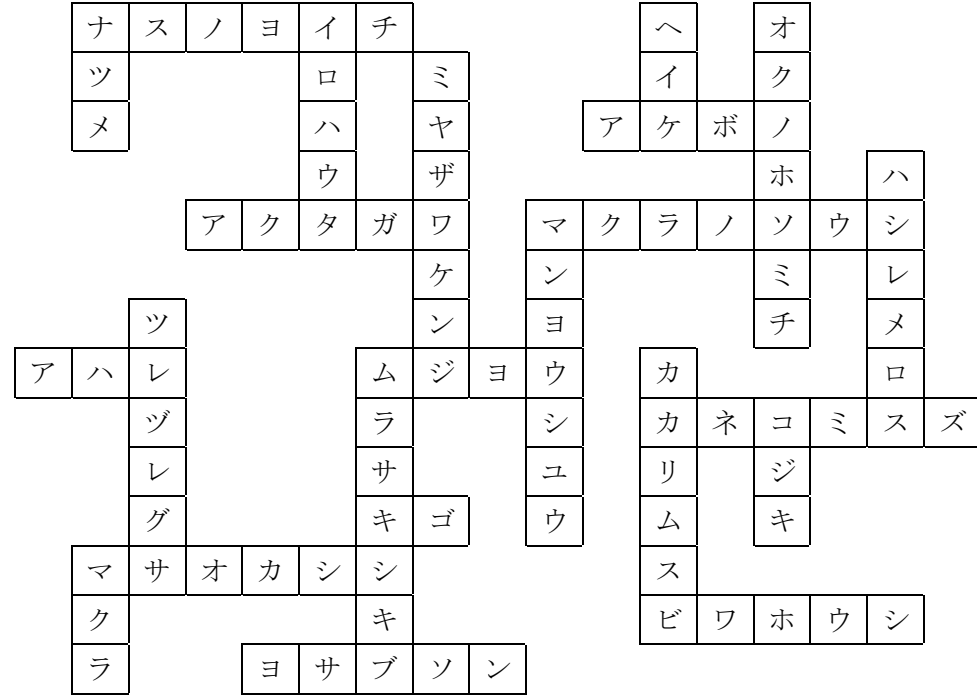
組 番 ()

次のパズルには、あとの《語群》の文学に関する言葉が入ります。文字数をたよりにパズルをうめなさい。



《語群》

- 三字 アハレ コジキ ナツメ ヘイケ マクラ
- 四字 アケボノ ムジヨウ
- 五字 アクタガワ イロハウタ ビワホウシ ヨサブソン
- 六字 カカリムスビ カネコミズ ツレヅレグサ ナスノヨイチ ハシレメロス マサオカシキ
- 七字 オクノホソミチ マクラノソウシ マンヨウシュウ ミヤザワケンジ ムラサキシキブ



《語群》の語の解説

係り結び 古文で、係の助詞(ぞ・こそなど)があると、結びの形が変わること。

枕詞 和歌で特定の語の前に置き、調子を整える言葉。

古事記 日本に残されている書物の中で最も古い書物。

万葉集 日本最古の歌集。

いろは歌 平仮名四十七字を一度ずつ使った歌。

枕草子 清少納言が書いた日本最初の随筆集。「春はあけぼの。」ではじまる。

紫式部 「源氏物語」を書いた女流作家。源氏物語は「もののあはれ」の文学といわれる。

平家物語 源平の戦いを中心に平家の盛衰を描いた軍記物語。琵琶法師によって語られた。弓の名手・那須与一が扇の的を射る場面も有名。

無常観 この世のものはずべて、たえまなく移り変わり、ずっと同じ状態のものはないという考え。

徒然草 作者は兼好法師。日本三大随筆の一つ。

おくのほそ道 作者は松尾芭蕉。五ヶ月をこえる旅の俳諧紀行文。

与謝蕪村 江戸時代の俳人。「菜の花や月は東に日は西に」の句など。

夏目漱石 作家。「坊っちゃん」「吾輩は猫である」など。

宮沢賢治 作家。「注文の多い料理店」「銀河鉄道の夜」など。

芥川龍之介 作家。「羅生門」「蜘蛛の糸」など。

太宰治 作家。「走れメロス」「人間失格」など。

正岡子規 歌人・俳人。「歌よみに与ふる書」など。

金子みずず 詩人。「わたしと小鳥とすずと」など。

組 番 ()

問一 俳句のきまりについて、次の空欄に合う言葉を書きなさい。

- 一. 俳句は () () () () () の十七音からなる文章です。
- 二. 俳句は必ず、季節を表す言葉「 () () 」を用います。
この二つの約束を「 () () 」と言います。

*中にはこのきまりから外れた俳句もあります。例えば

十七音ではない自由律俳句、季語がない無季俳句などです。

例) 咳をしても一人

尾崎放哉

種田山頭火

あるけばかつこういそげかつこう

三. 俳句には、句中の意味や調子の切れ目に「 () () 」を用いる技法があります。

切ることで余情を感じさせ、作者の気持ちを強調することができます。

問二 次の俳句の季語と季節を書き抜きなさい。

いくたびも雪の深さを尋ねけり

正岡子規

季語 () () () 季節 () () ()

問三 次の俳句の意味や調子の切れ目の位置に / を書き、切れ字を○で囲みなさい。

(例) 金剛の露ひとつぶ (や) / 石の上

(西山泊雲)

名月や納屋も厩うまやも梅のかげ

(高浜虚子)

10
(2点×5)

問一 俳句のきまりについて、次の空欄に合う言葉を書きなさい。

一. 俳句は(五)・(七)・(五)の十七音からなる文章です。

二. 俳句は必ず、季節を表す言葉「() 季語」を用います。

この二つの約束を「() 有季定型」()と言います。

*中にはこのきまりから外れた俳句もあります。例えば

十七音ではない自由律俳句、季語がない無季俳句などです。

例)咳をしても一人

尾崎放哉

あるけばかつこういそげかつこう

種田山頭火

三. 俳句には、句中の意味や調子の切れ目に「() 切れ字」を用いる技法があります。

切ることで余情を感じさせ、作者の気持ちを強調することができます。

問二 次の俳句の季語と季節を書き抜きなさい。

いくたびも雪の深さを尋ねけり

正岡子規

季語(雪) () 季節(冬) ()

問三 次の俳句の意味や調子の切れ目の位置に / を書き、切れ字を○で囲みなさい。

(例) 金剛の露ひとつぶ ○ / 石の上

(西山泊雲)

名月 ○ / 納屋も 厩^{うまや}も 梅のかげ

(高浜虚子)

組 番 ()

問一 次の俳句から「自由律俳句」をすべて選び、記号で答えなさい。(完答)

- ① 赤い椿あかきつばき白い椿と落ちにけり (河東碧梧桐)
- ② 咳せきをしても一人 (尾崎放哉)
- ③ ねむりても旅の花火の胸にひらく (大野林火)
- ④ たんぽぽたんぽぽ砂浜に春が目を開く (荻原井泉水)

()

問二 次の俳句の季語と季節を書き抜きなさい。

A チューリップ喜びだけを持つてゐる 細見綾子

季語 () 季節 ()

B 柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺 正岡子規

季語 () 季節 ()

問三 次の俳句の意味や調子の切れ目の位置に / を書き、切れ字があれば切れ字を○で囲みなさい。切れる場所がなかった場合には、俳句の一番最後に / を書きなさい。

(例) 金剛の露ひとつぶ ⊙ / 石の上 (西山泊雲)

- ① 菜の花や月は東に日は西に (与謝蕪村)
- ② くるがねの秋の風鈴鳴りにけり (飯田蛇笏)

10
(2点×5)